

通し 番号	事象	No	評価書分類	機種分類	機器分類	審査 ガイド 項目	No.	ページ	質問事項
1	高サイクル熱疲労	1	補足説明資料	ポンプ	ターボポンプ	(1)	⑬	1-2	ターボポンプの主軸折損について、内部流体に空気が流入しない系統構成であるとのことであるがその根拠を示すこと。
2	フレットイング疲労割れ	2	補足説明資料	ポンプ	ターボポンプ	(1)	⑬	1-2	余熱除去系ポンプ、原子炉補機冷却水ポンプ及び電動補助給水ポンプの主軸のフレットイング疲労割れについて、曲げ応力振幅と疲労限の比較評価の内容を示すこと。
3	フレットイング疲労割れ	3	補足説明資料	ポンプ	ターボポンプ	(1)	⑬	1-2	余熱除去ポンプ、原子炉補機冷却水ポンプ等の振動確認により機器の健全性を確認しているとの内容について示すこと。
4	流れ加速型腐食	4	補足説明資料	熱交換器	多管円筒形熱交換器	(1)	⑬	1-6	有意な腐食が生じている場合には、寸法計測により腐食進行程度を把握し、補修を行っている。とし、表2.2-1に湿分分離加熱器の主な補修経歴が示されているが、補修を判断する基準を提示すること。
5	スケール付着	5	補足説明資料	熱交換器	蒸気発生器	(1)	⑪	1-7	伝熱管のスケール付着について、「渦流探傷試験実施前の洗浄や運転中の流体温度および流量等の監視パラメータの監視により機器の健全性を確認している」とのことであるが、その内容について示すこと。
6	スケール付着(伝熱管)	6	補足説明資料	熱交換器	蒸気発生器	(1)	⑬	1-7	令和2年11月20日に報告のあった高浜4号の伝熱管スケール付着の水平展開として大飯3号で実施する保全活動を説明すること。
7	デンティング	7	補足説明資料	熱交換器	蒸気発生器	(1)	⑬	1-7	「蒸気発生器伝熱管に対しては、定期的に全数渦流探傷検査を実施し」とあるが、検査間隔と全数渦流探傷検査について具体的に説明すること。
8	スケール付着	8	補足説明資料	熱交換器	蒸気発生器	(1)	⑬	1-7	管支持板穴へのスケール付着について、傾向監視結果を示すこと。
9	SCC	9	補足説明資料	容器	加圧器本体	(1)	⑪	1-11	316系ステンレス鋼製のヒータスリーブでのSCCによる損傷事例に関し、酸素型応力腐食割れの特徴、民間研究での低荷重試験の試験条件(実機条件との関係を含む)及び試験結果を示すこと。
10	SCC	10	補足説明資料	容器	補機タンク	(1)	⑫	1-13	「大飯3号炉の蓄圧タンクでは、タンク本体の熱処理を行った後に管台を溶接しており、材料の鋭敏化はない」とする根拠を提示すること。
11	腐食(流れ加速型腐食)	11	補足説明資料	配管	炭素鋼配管	(1)	⑬	1-14	主蒸気系統配管及び主給水系統配管の腐食(流れ加速型腐食)について、至近の肉厚計測結果及び余寿命評価結果を示すこと。
12	SCC	12	補足説明資料	配管	ステンレス鋼配管	(1)	⑫	1-14	「高温かつ溶存酸素濃度が高くなる可能性のある範囲の溶接部については、耐力腐食割れ性に優れたSUS316系材料を使用している。」とあるが、SUS316を使用することで△①といえる根拠を提示すること。
13	SCC	13	補足説明資料	弁	仕切弁	(1)	⑪	1-16	弁棒の応力腐食割れについて、水素脆化型応力腐食割れの特徴、発生要因、応力のしきい値、通常の応力腐食割れとの主な相違を提示すること。
14	熱時効	14	補足説明資料	弁	仕切弁	(1)	⑪	1-16	海外においては、マルテンサイト系ステンレス鋼において、析出硬化型の熱時効を起こしている。当該プラントにおける本事象に対する考え方を示すこと。
15	摩耗	15	補足説明資料	炉内構造物	炉内構造物	(1)	⑬	1-23	制御棒クラスタ案内管(案内板)の摩耗について、全制御棒の落下試験の方法(判定基準を含む)、頻度及び至近の結果について示すこと。炉内計装用シムルチューブの摩耗について、渦流探傷検査の方法(判定基準を含む)、頻度及び至近の結果を示すこと。

通し 番号	事象	No	評価書分類	機種分類	機器分類	審査 ガイド 項目	No.	ページ	質問事項
16	劣化(中性子照射による靱性低下)	16	補足説明資料	炉内構造物	炉内構造物	(1)	⑬	1-24	水中テレビカメラによる目視確認について、その方法(可視範囲、健全性評価における想定欠陥のサイズ(深さ1/4t、長さ1.5t、t:板厚)との関係を含む)を示すこと。
17	疲労割れ(高サイクル疲労割れ)	17	補足説明資料	炉内構造物	炉内構造物	(1)	⑪	1-24	炉心そう等の高サイクル疲労割れについて、15×15燃料を対象とした1/5スケールモデル流動試験の結果を適用することの妥当性を示すこと。炉内構造物において温度の異なる冷却材が合流する部位における最大温度差の値を示すこと。
18	流れ加速型腐食	18	補足説明資料	タービン設備	高圧タービン	(1)	⑪	1-28	主蒸気入口管については、2次系配管肉厚管理指針に基づき、UT及び目視試験を実施し、予寿命管理を実施しているが、その内容(取替え時期等)について示すこと。
19	SCC	19	補足説明資料	タービン設備	高圧タービン	(1)	⑦	1-29	翼環ボルトに使用されているステンレス鋼の種類を提示すること。析出硬化型ステンレス鋼ならば熱時効に対する考え方を示すこと。
20	SCC	20	補足説明資料	計測制御設備	プロセス	(1)	⑫	1-36	「当該部位については、SUS304系より耐応力腐食割れ性の優れているSUS316系を使用している。」ことで溶存酸素濃度が高い部位にも有効で△①である根拠を提示すること。